

第22回和文化教育全国大会京都大会



【1/24（土）】研究発表 基調講演 シンポジウム

受付	付《9:00～》	受付開始	光風館2階ロビー
開会	会《9:30～9:40》	大会実行委員長挨拶 学会会长挨拶	光風館ホール
追悼	悼《9:40～10:00》	千玄室大宗匠 追悼 和一平和へのメッセージ	
研究発表	表《10:10～11:50》	分科会発表 第1分科会 251教室 第2分科会 252教室 第3分科会 253教室 第4分科会 352教室 第5分科会 353教室 第6分科会 354教室	聞光館2階、3階
昼食・理事会	会《11:50～12:50》	昼食：大学食堂 理事会：聞光館1階大会議室	
呈茶（茶道、煎茶道）	《11:50～12:50》	聞光館1階 茶室	
総会	会《12:50～13:10》		光風館ホール
基調講演	演《13:20～14:30》	いのちの華	光風館ホール 池坊 専好（池坊次期家元）
シンポジウム	《14:40～16:50》	グローバル化する日本文化の魅力と教育課題—京都からの発信—	光風館ホール
司会	谷本 寛文（京都光華女子大学/副学長）		
	岡崎 均（大阪体育大学/和文化教育学会理事長）		
基調講演者	池坊 専好（池坊次期家元）		
シンポジスト	河村 晴久（能楽師 觀世流 シテ方）		
	ランディー・チャネル（裏千家教授）		
	北村 昌江（ラングージ・アーツ研究&アカデミー）		
コメンテーター	梶田 敏一（前和文化教育学会会長/兵庫教育大学名誉教授）		
	中村 哲（和文化教育学会会長/兵庫教育大学名誉教授）		
閉会	会《16:50～17:00》	大会事務局長挨拶・学会理事長挨拶・次期大会開催代表挨拶	光風館ホール

【1/25（日）】巡検：大徳寺東門（現地集合）・山門（金毛閣）、聚光院の参拝 裏千家：重要文化財の茶室などの拝観と一般のお茶をいただきます。

主催 第22回和文化教育全国大会京都大会実行委員会 和文化教育学会
後援 文部科学省 京都府教育委員会 京都市教育委員会 京都新聞 KBS京都 日本教育新聞社

（一部後援申請中）

【和文化教育学会事務局】〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1 兵庫教育大学 鈴木 正敏
【<https://www.rawace.org/>】

令和7(2025)年度 第22回和文化教育全国大会京都大会要項

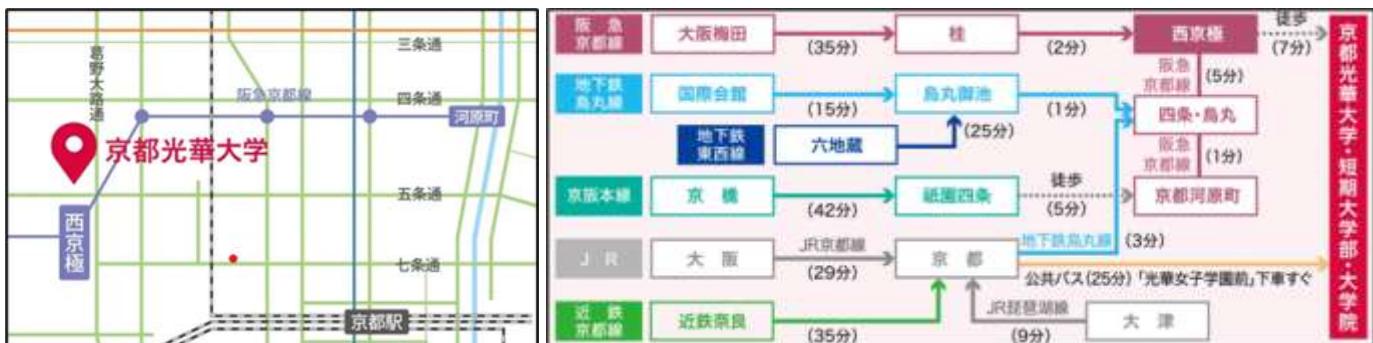
1. テーマ グローバル化する日本文化の魅力と教育課題—京都からの発信—

2. 開催趣旨

現代の日本文化は、伝統性と革新性の融合を特徴とし、グローバル化社会において独自の価値を發揮している。日本文化がグローバル化の中で大きな魅力を持ち得る一方、教育という視点からは様々な課題を抱えている状況にある。例えば、「自国文化を理解し、異文化と比較しつつ、多言語で発信できる能力」等が挙げられる。日本文化をグローバルに発信する教育実践は、次世代に必要な創造的・協働的資質を育成する基盤ともなり得るものであり、日本文化の魅力を再考しつつ、教育課題解決の糸口を見い出すことを期待する。

3. 会場及びアクセス 京都光華女子大学

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38



4. 日 程 【1月24日（土）】 研究発表 基調講演 シンポジウム

9:00	9:30 -9:40	9:40 -10:00	10:10 -11:50	11:50 -12:50	12:50 -13:10	13:20 -14:30	14:40 -16:50	16:50 -17:00	
受付	開会	追悼 「和—平和へのメッセージ—」 千玄室大宗匠追悼	研究発表 第1分科会 — 第6分科会 聞光館	昼食 理事会 【聞光館 大会議室】 【呈茶】 茶道・煎茶道部による接待 【聞光館 1階】	総会	いのちの華	基調講演 教育課題 シンポジウム グローバル化する日本文化の魅力と	シンポジウム グローバル化する日本文化の魅力と	閉会
光風館2階ロビー	光風館ホール	光風館ホール			光風館ホール	光風館ホール	光風館ホール	光風館ホール	光風館ホール

【情報交換会】1月24日（土）17:30～ 京都光華女子大学食堂 会費：5,000円

【1月25日（日）】 巡 檢

テーマ：『体感する茶道』

日 時：令和8(2026)年1月25日(日) 9:00～14:00

午前9時 大徳寺東門集合、午後2時 裏千家兜門解散

場 所：(1) 臨済宗大本山大徳寺 ①山門(金毛閣)拝観

②塔頭寺院・聚光院(三千家の菩提寺)拝観

(2) 茶道宗家・裏千家

茶室群の拝観とお茶の拝服

参加者：30名限定(先着)

参加費：9,000円(拝観費)



5. 内容

(1) 研究発表《 10:10~11:50 》「発表 15 分 質疑応答 5 分」

第1分科会 251教室 司会：佐藤 真（関西学院大学） 神永 典郎（白百合女子大学）

- ①伝承的わらべうた遊びにみる幼児の創造的表現の展開—母子の相互作用に着目して— 廣畠 まゆ美（兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科）
②神話は宝箱—神話から受け継がれるもの 江崎 圭伊子（川崎市立小杉小学校）
③公立小学校における「和太鼓伝承」の実践からみえるもの 山崎 敏哉（世田谷区立山崎小学校）
④子どもが和太鼓に親しむために必要な指導者のスキル—幼児・小学校教育を学ぶ学生の実践を通して— 土師 範子（中国学園大学子ども学部子ども学科）
⑤『浮世絵版画』教材による美術館での体験型プログラムの実践とその可能性 犬童 昭久（九州ルーテル学院大学）

第2分科会 252教室 司会：陶山 治（神戸学院大学） 守谷 富士彦（四天王寺大学）

- ①スーパー戦隊を題材とした和文化教育の実践 出村 雅実（わせがく高等学校）
②高等学校 総合的な学習における和文化教育の実践例 三枝 修（元兵庫県立姫路南高等学校）
③天皇と日本文化—教材開発の視点から— 森 一郎（元神戸市立高等学校教諭）
④日本型ウェルビーイングを視点としたプロジェクト型学習 及川 直人（八街市立朝陽小学校/千葉大学委託研究生）
⑤日本型ウェルビーイングと和文化教育 高橋 史朗（高橋史朗塾）

第3分科会 253教室 司会：吉水 裕也（関西学院大学） 森口 洋一（同志社大学）

- ①和文化を生かした地域教材の活用—祇園祭を題材に— 長瀬 拓也（同志社小学校）
②校庭の樹木を活用した和文化教育 向井 隆盛（行田市立南河原小学校）
③地域の文化資本に着目した小学校社会科授業開発研究 末永 琢也（高知大学）
④小学校社会科教科書における伝統文化の意味づけの分析 佐藤 正寿（東北学院大学）
⑤小学校社会科地域学習と「文化価値形成」を図る和文化教育—「地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。」— 小林 隆（佛教大学）

第4分科会 352教室 司会：杉山 正宏（帝京大学） 藤原 昌樹（桃山学院大学）

- ①地域の郷土芸能について 夏目 佳子（東海学園大学）
②地域活性生涯学習のための伝統文化活用 沖 けい（西宮能楽研究会）/関屋 俊彦（関大名誉教授）
③紙から空間へ、そして身体へ、書とテクノロジーの融合—2025大阪・関西万博公開デモについて— 福井 淳哉（帝京大学）/河島 由弥（川村学園女子大学）
④中学校道徳教科書における日本の伝統と文化～使用されている題材をもとに～ 吉田 雅子（大阪体育大学）
⑤子ども達と地域の歴史的な遺産継承に「できること」を思索する場づくり—江差町での日本遺産普及に向けたプロモーションフラッグシップ制作事業の取り組みを通して— 橋本 忠和（園田学園大学）

第5分科会 353教室 司会：桐山 由香（大阪青山大学） 阿部 弘生（仙台大学）

- ①和文化教育のジレンマの再考—武道におけるジェンダー課題に注目して— 竹繁 謙真（武庫川女子大学社会情報学部）
②和文化教育の課題と展望 上田 真由/松岡 靖（京都女子大学）
③「家紋」をテーマとした教科横断的授業の実践 山田 凜/表 真美（京都女子大学）
④大学における伝統工芸を生かした社会貢献—広島大学の実例から— 伊藤 奈保子（広島大学人間社会科学研究）
⑤グローバル文化シンボルとしての「鯉のぼり」プロジェクトの活動と意義—仏蘭西のクレマンソー館と独逸のマールバッハ小学校での「鯉のぼり」活動を事例に— 中村 哲（兵庫教育大学名誉教授）

第6分科会 354教室 司会：湯峯 裕（桃山学院大学） 植井 大輔（大谷大学）

- ①学校教育における茶道の位置づけに関する一考察—各教科の現状とその課題— 奥中 淳未（関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科）
②学校茶道実技に花月の式を 小室 順子（平安女学院大学伝統文化研究センター）
③奥田正造の茶道による学校教育 杉谷 朱美（平安女学院大学伝統文化研究センター）
④「社中」という教育共同体—茶道における修養と思想の構造— 関根 和矢（立命館大学先端総合学術研究科）
⑤アメリカにおける華道の普及と課題 藏重 伸（一般財団法人池坊華道会特別嘱託講師）

(2) 基調講演《 13:20~14:30 》

いのちの華

池坊 専好（池坊次期家元）

(3) シンポジウム《 14:40~16:50 》

グローバル化する日本文化の魅力と教育課題—京都からの発信—

司 会：

谷本 寛文（京都光華女子大学/副学長）

岡崎 均（大阪体育大学/和文化教育学会理事長）

基 調 講 演 者：

池坊 専好（池坊次期家元）

シ ン ポ ジ スト：

河村 晴久（能楽師 觀世流 シテ方）

ランディー・チャネル（裏千家教授）

北村 昌江（ランゲージ・アーツ研究&アカデミー）

梶田 敘一（前和文化教育学会会長/兵庫教育大学名誉教授）

コメンテーター：

中村 哲（和文化教育学会会長/兵庫教育大学名誉教授）

6. 大会 WEB サイト

「第 22 回和文化教育全国大会（京都大会）の『第 22 回大会サイト』
(<https://www.wabunka.online/>)」を開設します。本サイトの URL と QR
コードから大会内容の閲覧と大会参加の申込みが可能です。



7. 参加申込み方法

大会参加希望の方は、上記 WEB サイトから令和 8 年 1 月 17 日（土）までに必要事項を記入されて申込みをお願いいたします。申込と同時に参加費の送金をお願いいたします。なお、入金後の返金はできませんので、ご了承くださいますようお願いします。

8. 参 加 費

会員・会員外の発表者：3,000 円(令和 8 年 1 月 17 日までの入金の場合には、2,500 円)

一般参加者：1,000 円（資料代） 学部学生：無料

情報交換会：5,000 円 巡検：9,000 円

鯉のぼりプロジェクト支援費：1 口 500 円（口数に応じて）鯉のぼりを進呈

9. 参加費等の送金先

参加申込を踏まえて参加費を以下の銀行口座へご送金ください。参加費の送金は、必ず個人名を記載ください。なお、学会費送金の郵便振込口座とは異なります。

《銀行振込口座》

みなと銀行 社支店（325 やしろ）

普通預金 口座番号 3817159

口座名 和文化教育学会

10. 大会連絡先

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町 38 京都光華女子大学 谷本 寛文
【h-tanimoto@mail.koka.ac.jp】

グローバル文化シンボル「鯉のぼり」プロジェクトへの支援のお願い

2011年3月から実施していますグローバル文化シンボル「鯉のぼり」プロジェクトは、ウクライナやガザの問題も含めた世界的危機状況への未来志向の文化創造的関与の活動を図る試みです。本年5月5日（月）に「天空に世界の平和と文化交流を記念して、こどもたちといっしょに、こどもたちのために、こいのぼりをあげよう！」を万博記念公園の上の広場にて実施し、太陽の塔横ポールに鯉のぼりを掲揚しました。

国外では、昨年の7月にフランスでのジャパン・エキスポ、本年2月にはカンボジアでの絆フェスティバルに参加しました。また、10月には1920年ごろに当時のフランスの首相であったクレマンソーが鯉のぼりを掲揚したサン・ヴァンサン・シェル・ジュールのクレマンソー館にて鯉のぼりを掲揚しました。さらに、ドイツのドレスデン近郊のマールバッハにて1930年ごろに日本から送られた鯉のぼりが掲揚された小学校にて鯉のぼり活動を実施しました。今後もグローバル文化シンボルとしての鯉のぼり活動を推進しますので、ご支援のほどをお願い申し上げます。

<https://www.rawace.org/project.html>

